

令和7(2025)年度 商学・経済学研究科（修士課程）11月入試

試験科目名：国際経済論

[問Ⅰ]

1) 出題の意図

大学院において「国際経済学」を専門に研究するために必要な、ミクロ経済学の基礎的な知識と、それを国際貿易理論に応用した際の理解を確認する。

2) 評価のポイント

①市場経済における市場均衡分析と余剰分析について理解しているか。

②国際貿易へ応用において、貿易の利益について理解しているか。

答え：1. 閉鎖経済の時：

市場価格=20、均衡数量=30、消費者余剰=450、生産者余剰=450、総余剰=900

2. 自由貿易の後：

市場価格=40、国内供給量=50、国内需要量=10、輸出量=40

消費者余剰=50、生産者余剰=1250、総余剰=1300、貿易の利益=400

(注意) 本問題で記載されている図は、あくまで標準的な例示図であり、本問題の解答における、切片や各曲線の正確な位置を示すものではない。解答にあたっては、与えられた関数式に基づいて、自ら適切に図を作成すること。)

[問Ⅱ]

1) 出題の意図

「国際経済学」を研究する上で基盤となる国際貿易理論の理解度を確認する。

2) 評価のポイント

国際貿易の基本的なモデルである、リカードモデルとヘクシャー・オリーンモデルについて理解しているのか。また、2つのモデルにおける、比較優位の考え方をどのように説明できるか。

評価の基準は、①生産要素に関する記述、②比較優位が「比較生産費」か「要素賦存度」かの説明、③要素集約度の役割についての記述、④その他前提条件の違い等記述が正しく説明ができているかをもって評価